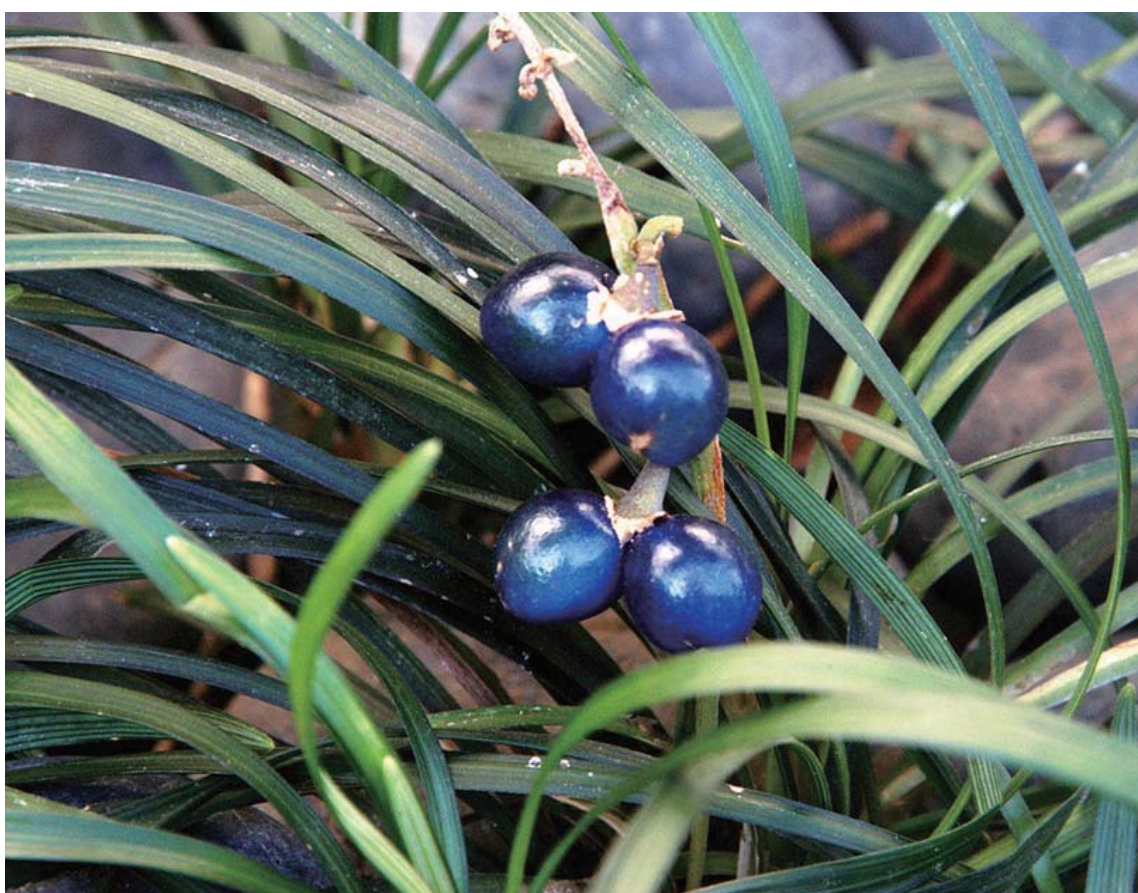


会報

(No.460)

2016年1月

題字：故 津村重舎元会長



青色の種子をつけたジャノヒゲ(写真提供：東京薬科大学 名誉教授 指田 豊 先生)



公益社団法人 東京生薬協会

Tokyo Crude Drugs Association

新年のごあいさつ



東京都福祉保健局健康安全部長 小林 幸男

新年あけましておめでとうございます。

公益社団法人東京生薬協会の皆様方におかれましては、健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より都の薬務行政に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、東京においてはオリンピック・パラリンピックが開催される2020年をピークに人口は減少に転じ、2025年には、都民の4人に1人が65歳以上の高齢者となることが予測されています。将来にわたって都民が住み慣れた地域で安心して生活できる社会を実現していくためには、適切な医療・介護・予防・生活支援・すまいが一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の実現に取り組んで行くことが求められております。そのため都では現在、東京にふさわしい地域包括ケアシステムの在り方を検討しておりますが、その中でも「住民主体の健康づくりの推進」や「医療と介護の連携」は重要な課題として取り上げられております。貴会が取り組まれているOTC医薬品やセルフメディケーションの普及啓発はこうした課題と密接な関係を持つものであり、今後とも大都市東京にふさわしい地域包括ケアシステムの実現に向け、ご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

また、危険ドラッグについては、一昨年池袋で発生した自動車事故以降、関連する事故や事件が後を絶たない状況を受け、都では全国に先駆けて制定した危険ドラッグの濫用防止に関する条例を改正し、警察職員の立入調査権限や都職員による危険ドラッグの取去権限の付与、知事指定薬物の緊急指定などの規定を盛り込みました。

関係機関との連携により、昨年7月には、都内に店舗がなくなるなど、これまでの努力が結実したものと考えております。

貴協会に管理運営を委託しております薬用植物園は、都が実施する危険ドラッグ等の指導・取締りに向けた植物鑑別等の試験検査・調査研究も担っており、都の薬務行政への多大なるご貢献に対し、改めて深く感謝申し上げます。

しかしながら危険ドラッグの販売経路は、インターネットを中心に、潜在化、巧妙化しており、都といたしましては、東京都薬物乱用対策推進計画に基づき、危険ドラッグなど薬物乱用のない社会づくりの実現に向け、行政、警察、地域が一体となって取り組んでまいります。

協会の皆様におかれましては、これまで生薬と漢方薬が伝統と実績に基づく安心と信頼で国民に支持されてきた経緯を踏まえ、今後とも、都民の保健衛生の向上におの一層貢献されますことを期待しております。

最後になりましたが、貴協会の皆様方のご健勝と益々のご繁栄を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

新年のごあいさつ



公益社団法人東京生薬協会 会長 藤井 隆太

新年を迎え、一言ご挨拶を申し上げます。

皆様方には2016年の新年をご健勝にてお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、皆様におかれましては、当協会の運営につきまして、日頃より格別なるご協力・ご尽力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

当協会は生薬業界で唯一の公益社団法人であり、生薬に関する啓発・普及活動、生薬資源等の基原・品質・薬理等の調査研究、生薬・薬用植物等に携わる人材の育成、薬用植物の国内栽培指導等の事業を展開しております。永年に亘り生薬業界の発展に寄与することが出来たのは、皆様の努力の賜物と感謝申し上げる次第です。

薬用植物の栽培については、栽培技術や優良薬用植物の種苗の提供等における多くの知識と経験を活用し、公益性の高い事業として平成26年度から薬用植物の国内栽培に対する支援を実施しております。

新宿西口イベント広場で開催するOTC医薬品の普及啓発事業については、年々規模や参加企業、入場者の増加が見られ、都内での啓発事業としては最大規模になってきていると評価されています。

国際的な活動としては、現代化中医薬国際協会(MCMIA)とは継続的な情報交換などの交流を続けており、香港ICMCM「漢方薬及び健康食品展示会」では、東京都薬用植物園のポスター並びに薬用植物国内栽培事業のポスターを紹介しました。

昨年は、薬用植物国内栽培事業として新たに福井県高浜町、岐阜県岐阜市、大分県杵築市との間で薬用植物栽培連携協定を締結し、現在7自治体にて栽培指導を実施しております。また、秋田県八峰町では3年間の栽培連携協定が終了し、新たに同協定を3年間延長しました。

本年は、各地区から生薬が出荷出来る体制が整いつつあります。

先行事例としては、食品グレードながら八峰町で栽培された原料を製品に配合し、品質向上とイメージアップにより大幅に売り上げが向上した例も報告されており、続いて小規模ながら医薬品への配合も開始されています。

また、北里大学との間では、センター・オブ・イノベーション(COI)プログラム共同研究開発基本契約を締結予定です。

東京都から管理運営を受託しております薬用植物園は、積極的に植物の栽培、イベント等を実施し円滑な運営を進めております。

これからも国民に対し薬草教室、薬草観察会などを提供して行きたいと思っております。本年も、漢方・生薬剤の発展、薬用植物栽培事業等を通じ、生薬業界の発展と国民の保健衛生の向上、公共の福祉に貢献するため、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

おわりに、皆様のご健康と益々のご繁栄を心よりお祈りして、新年のご挨拶とさせていただきます。

生薬の有用性散策 (10)

—飲酒後の物忘れに黄連解毒湯(?)—

● 元北里大学 生命科学研究所 布目 慎勇 ●

1. はじめに

深酒すると記憶が飛ぶと言う話をよく耳にする。ブラックアウト(アルコール性健忘症、アルコール性記憶障害)であり、繰り返すと認知症へのリスクが高まるともいわれる。年末年始や年度替わりには飲酒の機会が多いことから、ブラックアウトを経験する人にとっては気になるところである。

近年サフランに含まれるクロシンが、アルコールによる一時的記憶障害の回復に有効と報告されている。ところがサフランは高価であり、また抽出の手間が必要など利用しにくい面がある。クロシンは赤褐色の色素成分で、サフラン以外に山梔子にも含まれる。山梔子は主成分としてジェニポサイド、クロシンを含み(図)、ジェニポサイドおよび体内で加水分解されるジェニピンには記憶障害に有効との報告がある。従って山梔子を含む処方なかで二日酔いに用いるものがあれば、飲酒時に予め服用しておくことで物忘れや健忘症の予防にもなり得る。

該当する処方を調べたところ黄連解毒湯が上げられ、最近本処方では認知症にも効果が確認され注目されている。黄連解毒湯は高血圧の随伴症状や皮膚疾患に用いられることが多いが、飲酒後の物忘れに効果が認められた場合、さらに応用が広がると思われる。そこで黄連解毒湯について古典を調べ、飲酒後の物忘れに関する記述の有無や予防の可能性を検討した。

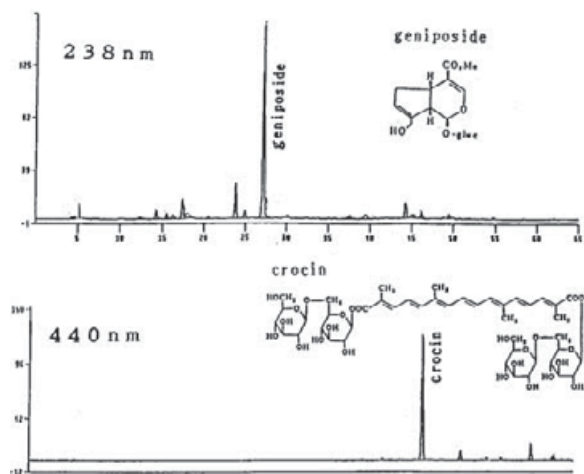


図 市場品山梔子のHPLC(同じサンプルを上段は238nm、下段は440nmで計測したもの)

2. 飲酒後の物忘れと漢方処方

1) 飲酒による物忘れ

飲酒による物忘れのメカニズムについて最近の研究によると、記憶を司る海馬の神経細胞のシナプスで、アルコールが脳に入るとグルタミン酸受容体の一種NMDA受容体の活動が抑制される。その結果、ニューロンで長期記憶を阻害するステロイドの産生が増加しレセプターの可塑性が失われ、短期記憶は出来ても長期記憶の形成が阻害される。短期記憶の大部分は1分前後の記憶であり、従って翌日になると飲酒の場での出来事は思い出せず、ブラックアウトとなる。

クロシンは動物実験で、アルコールによって抑制されたNMDA受容体を回復させることが明らかにされている。山梔子は古くから薬物や染料などに用いられ、薬としては脳機能に影響を与えることが知られており、飲酒による物忘れなど処方中での新たな応用の可能性がある。

2) 山梔子を含み二日酔いに用いる処方

飲酒後翌日になって頭痛、めまい、嘔吐などの中毒症状を呈することがある。いわゆる二日酔い(宿酔)である。よく用いられる処方として五苓散、黄連解毒湯、半夏瀉心湯、茵陳五苓散、黄連湯、三黄瀉心湯などが上げられ、黄連解毒湯に山梔子が含まれる。山梔子は清熱解毒、消炎、利胆などの効があるとされ、黄連解毒湯を始め、加味逍遙散、荊芥連翹湯、五淋散、温清飲、清上防風湯、防風通聖散、清肺湯、辛夷清肺湯などに配合される。

黄連解毒湯は黄連(1.5~2g)、黄芩(3g)、黄柏(1.5~3g)、山梔子(2~3g)からなり、顔色が赤っぽく、いらいらする傾向がある人の高血圧症、胃炎、二日酔い、不眠症、神経症、めまい、動悸などに用いられる。

3. 黄連解毒湯の古典の記述

1) 中国の古典

黄連解毒湯は『外台秘要方』(王燾、712)に記載されて以後、様々な同名異種の処方が開発され、『中医方剂大辞典』(南京中医学院編、1996)には20以上の処方が記載されている。その中で当初の黄連解毒湯および組成が類似した処方を取り上げ、薬能や応用を記述した。

●『外台秘要方』：黄連、黄芩、山梔子、黄柏。「飲酒に因りて復た劇しく、煩悶乾嘔し、口燥して呻吟し、錯語して臥すを得ず苦しむ。余思いて此の黄連解毒湯方を作る」

●『医学入門』(李てん[木偏に延]、1575)。「謔言、錯乱、呻吟を止めるに梔子、黄芩、黄連、黄柏」、「傷寒、汗の後、或いは飲酒により復た激しく苦しみ悶え、乾嘔、口燥、呻吟、錯語、煩躁して睡臥得ざるを治す。併せて胃熱、吐血、一切の熱毒、臟毒などの症を治す」

●『傷寒大白』(秦之楨、1714)。黄連、黄芩、黄柏、山梔、石膏。「発狂の症、外に表邪なく、裏に痰食ないもの」

●『治疫全書』(熊立品、1776)。黄連、黄芩、梔子。「一切の火熱、表裏ともに盛、狂燥煩心、口燥咽乾、大熱あって乾嘔、錯語して不眠、吐血や衄血、熱甚だしく斑を発するもの」

●『種痘新書』(張遜玉、1830)：黄連、黄芩、黄柏、梔子。「麻疹已に出、謔語ありて熱甚だしく昏迷し、人事不省の者」

黄連解毒湯は主に発熱による煩悶や謔言、不眠などの症状に用いている。当初の“飲酒”の文字は次第に見られなくなり、傷寒や麻疹など熱性疾患で同様の症状に応用されるようになる。現代中国の教科書では清熱解毒剤に分類され、大熱があって煩躁し、口や咽が乾き、謔言や不眠、下痢、黄疸、吐血などの症状に用い、二日酔いへの応用は記されていない。

2) 日本の古典

黄連解毒湯は鎌倉時代の『頓医抄』(梶原性全、1304)に紹介され、発熱後の諸症状に用いることが記されている。漢方が普及する江戸時代になると多くの医方書に収載され、『外台秘要方』に記された黄連解毒湯の内容を基本とし、様々な加減方も記されている。以下に主な医方書に収載された黄連解毒湯の記述を抜粋する。

●『頓医抄』：「傷寒時行の三日以後、汗ありて酒を飲むによりて、大事に成りて熱あり苦しみから、ねつきし口乾き狂言して臥す事あたわずを治す」

●『牛山方考』(香月牛山、1699)：「実熱実火を治する通用の剤であり、また汗吐下のあと熱の退かない症を治す剤である」

●『方読弁解』(福井楓亭、江戸中期)：「大熱が盛んで、煩悶、呻吟、不眠の症には皆よい。…また酒毒などの患を解く処方である」

●『校正方輿輓』(有持桂里、1829)。「壯熱、狂燥、睡臥不安の症に的当の方である」、「疔毒が内を攻め、心神がうっとりとなって煩悶し脈実のものには、黄連解毒湯の右に出るものはない」

●『勿誤藥室方函口訣』(浅田宗伯、1978)。「胸中の邪熱を清解する聖剤であり、…この処方はまだ酒毒を解くのに妙効がある」

古典に記された黄連解毒湯を纏めると、飲酒など様々な原因で発熱煩悶し、謔言や不眠などの諸症状に用い、中枢神経系に作用して鎮静効果を示すことが推測される。しかしいずれも物忘れや記憶に関する記述は見当たらなかった。

4. 飲酒時の物忘れと黄連解毒湯

1) 飲酒による弊害は古くから知られており、三国志に登場する曹操や劉備も禁酒令を出している。『抱朴子』(葛洪、317)には「酒は病気を生じる毒物であり、鵜の毛ほどの利益もなく、山ほどの大害がある」とし、主に飲酒後の言動や行動、態度の変化、弊害について詳細に述べている。

日本では『医心方』(丹波康頼、984)に飲酒時に起こる諸症状や対処法などが記されている。酒に関する文献は、概ね益よりも害の方を強調した記述が多く見受けられ、それらは現代でも当てはまるものが多いが、いずれも健忘や物忘れが生じることは記載されていない。

なお健忘に関して中国の古典を調べると、古くから「善忘」、「喜忘」、「多忘」、「好忘」などの述語が見出され、様々な処方が収載されている。原因として感情の起伏や動悸などが上げられているが、やはり飲酒により物忘れが起きることは記されていない。物忘れは飲酒後に限らず日常起こることであり、健忘との違いなどはよく理解されていなかったものと思われる。

2) 古典には黄連解毒湯の物忘れに関する記載は見当たらないが、飲酒後の様々なトラブルに用いられることから、物忘れにも有効な可能性がある。止むを得ず大酒になりそうな場合、予め黄連解毒湯を服用しておくこと、二日酔いの症状が軽減され、また物忘れや認知症の予防も期待できる。飲酒時の心地よさが損なわれるとの話もあるが、いずれにせよデータの蓄積が待たれる。

日々の暮らしと生薬

株式会社ツムラ 笠原 良二

平成27年4月23日東京都薬用植物園にて開催した薬草教室での内容を簡単に紹介させていただきます。



※お蔭様で、当日は大勢の方々に聴講頂き、気合の入った教室になりました。

日常身の回りにある植物が実は、生薬としても多く利用されています。

「立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花」と美人を例えるこの句は全て生薬の基原植物でもあることは、漢方生薬のお話では常套句であります。

そこで先ず初めにこれらの生薬について説明させていただきました。

芍薬：ボタン科 *Paeonia lactiflora* の根。
《*Paeonia* はギリシャ語で神々の医師、*lactiflora* は乳白色の花の意味》

- ・ボタンは『花王』といわれますが、芍薬は『花相』と呼ばれます。
- ・シャクヤクは草、ボタンは木。
(冬、シャクヤクは地上部が全部枯れてなくなるが、ボタンは枝が残る)
- ・園芸用ではいろいろな色の花がありますが、薬用の花は一般的には白花・一重です。
(日本薬局方には特に花の色の規定はありません)
- ・外皮周辺にペオニフロリン等の成分が多く分布するため、外皮をつけたままの芍薬を生産する乾燥技術を確認し、今では皮つきが一般的になりました。
- ・花言葉『恥じらい』『はにかみ』『内気』『清浄』

牡丹：

- ・ボタンは『花王』『百花の王』といわれ、中国の国花です。
唐獅子牡丹は百獣の王と花の王。
- ・ボタンは木、シャクヤクは草に分類されます。

- ・ボタンとシャクヤクの花の区別。
雌しべがはっきり見えるかどうかで見分ける。
- ・花はボタンのほうがシャクヤクより早く咲きます(10日～2週間くらい牡丹が先)。
- ・ボタンの薬用部位は根の皮(硬い芯=木部を抜く)、シャクヤクは根。
- ・牡丹の『丹』は丹頂鶴の丹で、『赤』という意味ですが、牡丹皮の名産地(安徽省銅陵鳳凰山近辺)の薬用ボタンの花は『白色』です。
(根皮の表面が赤っぽいから?)
- ・奈良県で以前少し栽培されていましたが、現在はほぼ栽培はありません。
原因は農村の高齢化、後継ぎ不足等ですが、『芯を抜く』作業に歯の力が必要で、高齢化のため入れ歯ではその作業ができなくなったというような原因もあるとのことらしいですが・・・。
- ・花言葉『王者の風格』『高貴』『はじらい』『壮麗』

百合：

- ・『一般用漢方処方』では辛夷清肺湯のみ配合。
- ・すらっとした茎の先に花が付き、風に『揺れる』様子から『ユリ』の名がついた。
- ・漢字の『百合』は、鱗片がたくさん重なっていることから名づけられた。
- ・食用として中華料理、日本では茶碗蒸しなどに用いられる。
- ・ユリにはたくさんの種類があり、日本、中国はユリの宝庫で、欧米には江戸時代末にシーボルトが紹介した。
- ・女性の美しさの例えで「立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花」と言われ、「芍薬のように風情があり、牡丹のように華麗で、百合のように清楚」という意味。
- ・花言葉はユリの種類で色々あります。
- ・フランスの国花のひとつ(複数の国花があります)。
- ・花言葉『賢者』(オニユリ)、『貴重な』(ユリ)

○以下下記分類ごとに各生薬について説明させていただきます。

東京都薬用植物園 薬草教室

【日々の暮らしと生薬】

食品としても用いられる薬用植物

【凡例】植物名(生薬名：薬用部位：薬能など)

キキョウ(桔梗：根：鎮咳去痰)

アンズ(杏仁：種子：鎮咳去痰)

イネ（粳米：種子：温病補陰）
ゴボウ（牛蒡子：果実：発汗解表）
ゴマ（胡麻：成熟種子：補血）
サンザシ（山楂子：偽果：健胃・止瀉）
ヤマノイモ（山薬：根茎／担根体：補気強壯）
ショウガ（生姜：根茎：発汗解表）※※（香辛料）
コムギ（小麦：種子：鎮静）
シソ（蘇葉：葉：発汗解表）
チャ（茶葉：葉：利水）
オタネニンジン（人參：根：補気強壯）
オオムギ（麦芽：発芽した穎果：健胃・止瀉）
ハマボウフウ（浜防風：根・根茎：鎮咳去痰）
ハス（蓮肉：種子：補気強壯）
ウド（独活：根茎：去湿止痛）※
ウド（和羌活：根：発汗解表）※
クズ（葛根：周皮を除いた根：発汗解表）
キク（菊花：頭花：発汗解表）
ハトムギ（薏苡仁：種皮を除いた種子：利水）
トウガン（冬瓜子：種子：排膿）
ベニバナ（紅花：管状花：駆瘀血）※※（染料）
香辛料としても用いられる薬用植物
ウイキョウ（茴香：果実：健胃）
ショウガ（乾姜：根茎：温補）※※（食品）
チョウジ（丁子：つぼみ：温補）
ウンシュウミカン（陳皮：成熟した果皮：行気／健胃／鎮咳去痰）
ハッカ（薄荷：地上部：発汗解表）
ヨモギ（艾葉：葉および枝先：補血／止血）
樹木である薬用植物
モモ（桃仁：種子：駆瘀血）
キハダ（黄柏：周皮を除いた樹皮：清熱／健胃）
ホオノキ（厚朴：樹皮：鎮咳去痰／健胃）
クチナシ（山梔子：果実：清熱）
クコ（地骨皮：根皮：清熱）※、※※（果実）
タムシバ、コブシ（辛夷：つぼみ：発汗解表／鼻閉発散）
マグワ（桑白皮：根皮：鎮咳去痰）
ハチク、マダケ（竹茹：稈の内層：鎮咳去痰）
カギカズラ（釣藤鈎：とげ：鎮静）
ビワ（琵琶葉：葉：鎮咳去痰）
オオツヅラフジ（防己：茎および根茎：利水）
クヌギ（樺櫨：樹皮：駆瘀血）
ボタン（牡丹皮：根皮：駆瘀血）※※（花卉）
アケビ（木通：茎：利尿）
レンギョウ（連翹：果実：清熱）
果実でもある薬用植物
ダイダイ、ナツミカン（枳実：未熟果実：行気／消化促進／鎮咳去痰）
クコ（枸杞子：果実：滋養強壯／明目）※、※※（樹木）
サンシュユ（山茱萸：偽果の果肉：補気強壯）
ナツメ（大棗：果実：補気強壯）

園芸植物（花卉など）でもある薬用植物

キク（菊花：頭花：発汗解表）
シャクヤク（芍薬：根：補血）
アミガサユリ（貝母：りん茎：鎮咳去痰）
オニユリ、ハカタユリ（百合：りん片：温病補陰／鎮咳去痰）
ジャノヒゲ（麦門冬：根の膨大部：温病補陰／鎮咳去痰）
トリカブト（附子：塊根：温補／鎮痛）
ボタン（牡丹皮：根皮：駆瘀血）※※（樹木）
リンドウ（竜胆：根および根茎：清熱）

染料でもある薬用植物

ベニバナ（紅花：管状花：駆瘀血）※※（食品）
ムラサキ（紫根：根：清熱）

菌類である薬用植物

マツホド（茯苓：菌核：利水／健胃／精神安定）
チョレイマイタケ（猪苓：菌核：利水）

その他（野生植物など）

カワラヨモギ（茵陳蒿：頭花：利水／黄疸治療）
オウレン（黄連：根茎：清熱／止瀉／健胃・消炎／精神安定）
キカラスウリ（栝楼根：根：鎮咳去痰）※
キカラスウリ（栝楼仁：種子：鎮咳去痰）※
ハマスゲ（香附子：塊茎：行気）
ヒナタイノコズチ（牛膝：根：駆瘀血）
ミシマサイコ（柴胡：根：清熱／昇陽）
ウスバサイシン（細辛：根および根茎：発汗解表／鎮咳去痰）
オオバコ（車前子：種子：利水）
ドクダミ（十薬：夏期の地上部：清熱）
サラシナショウマ（升麻：根茎：発汗解表）
コウホネ（川骨：根茎：駆瘀血）
サジオモダカ（沢瀉：塊茎：利水）
アサ（麻子仁：種子：瀉下）
スイカズラ（忍冬：葉および茎：清熱）※
スイカズラ（金銀花：つぼみ：清熱）※
マイズルテンナンショウ（天南星：塊茎：鎮咳去痰）
カラスビシャク（半夏：塊茎：鎮咳去痰）
オニノヤガラ（天麻：塊茎：鎮静）

備考：

※；同じ植物で部位の違いにより生薬名が違う生薬

※※（○○）；複数の範囲にまたがる生薬

参考図書：漢方210処方生薬解説

（発行所；株式会社じほう）

：漢方のくすりの事典

（発行所；医歯薬出版株式会社）

一本堂薬選を読む (21)

附子

● 金匱会診療所 小根山 隆祥 ●

(読み)

〔試効〕

中寒 中湿 胃泄 膝痛 脚痺 傷食 吐瀉
厥逆 手足抱攣 久冷痢疾を療す。

中を温め、月閉を治す。

乾姜と善く脱せんと欲する気を回す。

大力勇走 能く全軀を運す。心下の痞塞を衝閉し、
虚汗を止め胃反

〔撰修〕

凡そ、附子を選ぶに大いなる者を以て佳となす。
十六枚を以て一斤となすは是なり。また、七八枚、
十枚にして、一斤なるものあり。

益々良なり。 小なきものも亦、以て用ゆるに
足る。扱ひ去るべきにあらず。

その至って小なる者は即 側子 樓籃子なり。
力 稍劣る。用いるとなすに堪えず。

用ゆる時、皮を去り、頭尖 孕子を削り下し、
破りて八片と成し、水に漬すこと一時ばかり。
頻頻 水を換え、色白く鹹味少なきに至るを度
となす。

判み細やかにし日乾する。此れは見在薬舗華産
の附子に就いて、これを言うのみ。も亦、已む
ことを得ざるの説なり。

今 薬舗ある所 海西より来たる者を観るに、
即ち尿制を経て、久しき者なり。

予思うに、人尿 物を壊さず。試みに見よ。尿
桶 数十年を経て、腐壊せず。

しかるに、塩を用いて、諸物を淹蔵 (エンゾウ)
するは半ば存し、半ば壊す。

市人 元 (モト) 利を要するが為に、或は當に
此の損多く、益少なきことを為さざるべきなり。
按ずるに、古 尿制なし。

尿制は朱震亨に始まる。震亨また曰く、塩少し
ばかりを入れて、尤も好しと。

爾来、その説滋長し、訛を受け、尤もに效 (ナラ)
う、遂にそれをして、皆尿制に従わせしむ。

凡そ、附子を作出するの境、始めて掘り取り時
に臨みて、直ちに尿醋を用いて製造す。しかる
後に、あまねく四方に貨す。

業已に、その半分の氣力を殺奪す。而して、庸
医 已に尿制を経たるを知らず。

却って、再び童溲を用う。浸し、透かし、蒸し、
煮て、復、三二分の性味を損耗するなり。

天稟の大力 存する所、幾ばくも無し。卒に烏
糞をして、児女と力を比ばせしむるが如きを致す。
勝りて歎くべきかな。

故に、海西より来る者を用ゆるは已むを得ざる
に出るなり。

姑らく、闕を補い、責を塞ぐるに取るのみ。

この邦 諸山附子いたって多し。しかるに人
識るもの稀なり。

故に一所の作出なし。

偶々、山中に自生する者を掘り取り、甚だ瘦小
にして、用うるに中らず。恨むべきと為すのみ。
若し、後來 予が志願を遂げ、諸州をして、真
の附子を作出せしむことを得れば、則ち豈止 (タダ)
わが門の幸なるのみならんや。実に海内の福なり。
雷鞞 底平かなる者を須 (モトメン) と曰んより、
或いは附子の形 蹲坐正しきものを以て上と為す。
という。

これ倒 (サカサマ) に坐えて、これを言う。何
ぞそれ錯れるか。

遂に乃ち執りて、実に然りと為して、之を作出
すの処に至っても亦、多くその軟なる時に臨みて、
之を取って、倒まに坐之をき、力を極めて、厭
圧 (エンアツ) し、強いて頂平ならしむ。自然
に非ざるなり。

元 (モト) 是れ頭にして、下に非ず。何ぞ底と
云うを得ん。名を命ずること顛倒。

悖 (モトル) ることも亦、甚し。

故に今、改めて 頭の字を用う。況や、その頂
に陥り、頭凸 (トツ) かなること、撰品に在り
ては則ち皆拘わるところに非ず。強いて頂平な
るを要することを須 (モチイ) ざるなり。

凡そ、熱灰火中に炮じ、拆 (サカ) せしむ。及
び炒黄し、或いは造醋に淹 (イ) れ、或いは薄
く切り、東流水を以て、黑豆を併せて浸し、或
いは甘草塩水姜汁童尿と同じに煮熟し、用うる
など種々の制法、皆わが門の取らざる所なり。

〔弁正〕

附子烏頭 本 (モト) 是れ一物。

惟母と子との異なるのみ。附子は子芋のごとく、
烏頭は渠芋 (カシライモ) の如くと。古今その
説一定し、復異論なし。

予を以て、これを観るは猶議すべき者あり。

今 予が小園中に植える所を観るに、附子烏頭

軟烏頭の三種あり。

附子葉、烏頭の葉に比すれば、刻畝 浅短 葉面の光無し。数道の皺紋あり。

石竜芮（セキリュウゼイ）、毛茛（モウコン）の刻畝無き者に似て毛無し。

茎緑或いは紫花色。烏頭の花より薄し。譬えば、紫芋（ダウノイモ）と青芋（エグイモ）との如きなり。散りめれば、相通ず。対すれば異なることあり。

今 紫芋と青芋とを喫するども、紫芋子の味、青芋子より勝れり。

紫芋魁（ムラサキイモノカシライモ）の味、更に青芋魁（エグイモノカシライモ）よりも優れり。易牙の者流・に品題を殊にす。

世を挙げてこれを知る。固（モト）より言うを待たず。然る時は附子と烏頭とを小異なきことを得んか。

本草の諸説に云う。元種うる者を以て烏頭と為す。烏頭の傍らに附いて生ずる者を附子と為すと。この如きに当年の烏頭は即ち是去年の附子。当年の附子即ち是来年の烏頭。ここぞ烏附を分かちおく。是と為さん。

もし、求むべからずんば烏頭の附子を用いるも亦、可ならずと為さず。

若し、求むべけんば、予が定るところの附子草の附子を用ゆるに若かず。

猶、青芋の子を喫するよりは紫芋の子を喫するに如かず甘美なるなり。

本草 また謂う 三四月採るを烏頭と為す。此れ附子を用いて、地に植え、芽初めて生ずる時に及び、掘り取るは猶、芽芋のごときなり。故に予 附子烏頭 相通用すべきと言うも、過論に非ざるなり。

概して、之を論ずれば、両の者 性相甚しく遠からず。

もし、附子なきときは烏頭を用うるも亦可なり。天雄、側子、漏籃子などを用ゆる時も亦 可ならざるに非ず。

但、その細微を詳審にすれば、小異あるのみ。筆記す。附子烏頭一類異種にして、一類毎 孕子附ある者を以ての故に、之を附子という。烏頭のごときは烏鴉頭の如きを以ての故に、之を烏頭という。

〔意訳〕

〔試効〕

中寒 中湿 胃泄 膝が痛み、脚が痺れる。

食べ過ぎによる嘔吐下痢

手足の冷えによる強ばりと痙攣、慢性の冷えによる下痢症状や体を温め、月経閉止などを治療する。

乾姜とよく組み合わせられて、気力が落ちそうな状態を回復し、大きな力と勇気を与えて、体を動かさせる。みぞおちの痞えやふさがりを衝き破る。汗を止める。胃反。

〔撰修〕

凡そ、附子を選ぶには大きい者が佳い。

十六枚を一斤とするのは良い。また、七八枚でも十枚でも一斤に成るものがあるが、更に良い。小さいものも亦、使用することが出来る。扱ひすててはいけない。

極めて小さい者は即側子とか漏籃子といわれるものである。薬力に稍劣るので、薬用に使用するのには不十分である。

使用する時、皮を去り、頭尖（上部のとんがっているところ）や孕子（子供を孕んでいる）のようなごつごつと出っばる部分を削り、八片に分けて、水に漬すことおよそ2時間ばかり。しばしば水を換え、色白く鹹味少なくなったときを目安とする。

細かく判み日乾する。此れは現在薬舗にみることのできる中国産の附子に限り、言うことが出来る。

これも亦、已むをえんことか。

今 薬舗にある 海西より来た者を観ると、尿の加工を経て、久しき者である。

予（香川修庵）が思うに、人尿は 物を壊さない。調べてみると、尿桶は数十年を経ても、腐って壊れないが、塩を用いて、諸物を久しく貯蔵するのは半ば存し、半ば壊す。

世間の人が 元來、利を必要とする為に、此のような損が多く、益の少ないことをするだろうか。考えるのに、昔は 尿による加工などはない。尿による加工は朱震亨に始まる。また震亨がいうのには、塩は少しばかりを入れるのが、尤も好いと。

以來、その説が発展し、皆尿制に従わせた。

凡そ、附子を作出する様子は始めて掘り取った時に、直ちに尿酢を用いて製造し、しかる後に、広く四方に販売する。

作業が終わったときに、その半分の薬性と効力が殺奪されて、庸医は すでに尿の加工を経ているの知らないで、却って、再び童尿を用い、浸し、透かし、蒸し、煮て、復、二三分の薬性を損耗する。

天から授かった大きな薬効も残っているところはあまりない。

突然、捉えた烏と子供・女との力比べでもしてものだと、いるようなものだ。嘆きに耐えがたい。古來から、海西からくるものはやむを得ないことなのか。

しばらく、不足した時の補いで、叱責をふさぐの
に取るだけだ。この国の諸山に附子は極めて多
いが、それを認識している人がまれであるから、
一か所からの産出はない。

たまたま、山中で自生しているものを掘り取り、
甚だ瘦せて、小さいものだと、使用するのに不
適当である。恨めしいと思うだけだ。

若し、後日 予が志願を遂げ、諸州で、真の附
子を作成せしむことが出来るならば、

わが一門の幸ばかりでなく実に天下の福である。
雷敷が 底が平なる者を求めるといってより、
もしかすると附子の形は 正しくうずくまって
すわっている形の附子が上品とされた。

これは倒（サカサマ）に坐している形を言い、
何かあやまりではないか。

遂に、このことに執心して、実際にそうでな
ければいけないとして、之を作る処に至っても亦、
多くその軟い時に、之を取って、逆さまにして、
力をいっぱい、圧力をかけ、無理に頂上を平に
した。自然ではないのだ。

もともと、是は頭で、下ではない。何で底と云
うのか。命名も顛倒している。

道理に外れていることも亦、甚だしい。

故に今、改めて 頭の字を用いる。況や、その
頂が凹か凸かは撰品ではどちらでもよいこと
である。無理に頂を平にする必要はない。

凡そ、熱い灰の中で炮じ、別々に分け、炒黄し、
或いは酢にひたして、或いは薄く切り、黒豆と
併せて東流水に浸し、或いは甘草塩水姜汁童尿
と一緒に煮熟するなどの種々の加工は、全てわ
が一門では採用しない。

〔弁正〕

附子烏頭 共に同一の起源植物である。

惟母と子との関係で附子は子芋。烏頭は渠芋（カ
シライモ）のようなものだ。

古今その説は一定して、復異論もない。

予はこのことについて、猶討議すべき点がある。
今 予が小園中に植えた植物を観ると、附子烏
頭軟烏頭の三種がある。

附子の葉は烏頭の葉に比べると、鋸歯が浅く短く、
葉面のつやが無い。数条の皺紋がある。石竜芮、
毛茛の鋸歯の無い者に似て、毛が無い。

莖緑或いは紫。花の色は烏頭の花より薄い。譬え
れば、紫芋と青芋との関係である。別々に見れば、
ともに同じ。比較すれば異なることがわかる。

今 紫芋と青芋とを食べると、紫芋の子芋の味
は青芋の子芋より勝る。

紫芋の親芋の味は更に青芋の親芋より優れり（易牙
の者流・に品題を殊にすは・の字が読めないの
で意味不明）。

世間の人みんなこのことを知っているの
で、固（モト）より言う必要はない。

然る時は附子と烏頭とをちいさな違いがないと
言うことが出来るか。

本草の諸説に云う。はじめ植える者を烏頭とし、
烏頭の傍らに附いて生ずる者を附子とすると。
このように当年の烏頭は即ち去年の附子。当年
の附子即ち来年の烏頭。これで烏頭附子を分け
ておき、正しいとしよう。

もし、求むことが出来ないときは烏頭の附子
を用いるのも亦、不可とはしない。

若し、求むことが出来るのならば、予が定める
ところの附子草の附子を使用するのが良い。

猶、青芋の子芋をくうよりは紫芋の子芋を食
うほうが甘美で良いのと似ている。

本草は、また三四月に採集したものを烏頭とい
う。これ附子を用いて、地に植え、芽が初めて生
じるときに、掘り取ったものが芽芋のごとき
である。ゆえに、予が附子烏頭、お互いに通用
することが出来ると言うのも言い過ぎではない。

一般に、これを論ずれば、両者の薬性は甚だ
近い。もし、附子がなければ、烏頭を用いる
のも可能だ。天雄・側子・漏籠子等を用いる
のもまた、不可ではない。

ただし、その細微を詳しく審議すれば、細
かい点が異なるに過ぎない。

〔筆記〕

附子烏頭は一類異種で、1ヶ毎に子を着
けている。これを附子という。

烏頭は烏の頭に似ている形をしている
ので、これを烏頭という。

【参考】

中寒：消化器官系が冷えて、働きが悪く、
食べると吐き、冷たいものを食すると下痢
する症状になる。

中湿：雨や湿度の高い時に、特に関節が
痛む疾患

胃泄：胃の働きが弱く、飲食物が消化
されない。

胃反：胃潰瘍があって、胃がかなり弱
り、嘔吐が止まらないような場合。

東流水：西より東に流れる水。陽気をも
つ。中国の川は皆東流するので、単に川
の柵とも。

石竜芮：キンポウゲ科 タガラシ *Ranunculus sceleratus*

この名前で果実。或るいは全草が神農本
草經の上薬（森本）に収載。

毛茛：日本ではキンポウゲ科 ウマノア
シガタ *Ranunculus acris* に該当する。

軟烏頭：不明

側子：附子のそばに更に付着している
もの。

漏籠子：籠から漏れるような附子の極
めて小さいもの。

附子草：トリカブトのことか

附子

試治療中寒中濕胃泄膝痛脚痺傷食吐瀉厥逆手足拘攣久冷痲疾溫中治月閉與乾薑善回欲脫氣大力勇走能運全軀衝開心下痞塞止虛汗胃反撰修凡撰附子以大者為佳以十六枚為一升者是也又有七八枚十枚而一升者益良小者亦足以用非可擇去其至小者即側于漏籃于也力稍劣不堪為用用時去皮削下頭夫于破成八片水漬一時許頻頻換水至色白鹹味少為度對細日乾此就見在藥舖華產附子言之爾亦不得已之說也今觀藥

舖所有自海西來者即經尿制而久者也于思人尿不壞物試見尿捕緹數十年不腐壞而用鹽淹藏諸物并存半壞市人元為要利或當不為此損多益少之害也按古無尿制尿制始于朱震字震亨又曰入鹽少許尤好爾來其說滋長承訛故尤遂使其皆從尿制凡作出附子之境臨始掘取時便直用尿醋制造而後普皆四方業已較奉其半分之氣力矣而虛醫不知已經尿制却再用童溲浸透蒸熟復耗損三分之性味也天稟大加所存無幾平致如使烏雞與兒女比力可勝哉故用海西來者出于不得已

也姑取補關塞者耳矣此并諸山附子至為而人猶識者故無一所之作出偶掘取山中自生者甚瘦小不中用為可恨耳若得後來透子志願使諸州作出真附子則豈止吾門之幸哉實海內之福也自雷斅曰須底平者或云附子之形以蹲坐正者為上此倒坐而置之何其錯乎遠乃執為當然而至子作出之處亦多臨其軟時取之倒坐極力壓按強使頂不非自然也元是頭而非下何得言底命名顛倒特亦甚矣故今改用頭字況其頂陷頭凸在撰品則皆非所拘不須強要頂字也凡熬灰火中炮令拆及炒黃

或造醋淹或薄切以東流水并黑豆浸或甘草鹽水薑汁童尿同煮熟用等種種制法皆吾門之所不取也
辨正附子為頭本是一物惟母與子之異耳附子如子子為頭如漢子古今其說一定無復異論以予觀之猶有可議者今觀子小園中所植有附子為頭軟為頭三種附子葉比為頭葉刻缺淺短葉面無光有數道皺文似石龍芮毛茛無刻缺者而無毛莖綠或紫花色薄于為頭花壁如紫葍與清子也散則相通對則有異今嗅紫葍與清子味勝於清子于

子則用為頭亦可天雄側于漏籃于等亦非不可但詳審其細微則有小異耳
筆記
附子為頭一類異種而以母一顆有子子附者故曰之附子如為頭則以似為鴉頭故曰之為頭

紫葍味更優於清子魁易牙者流變殊品題舉世知之固不待言然則附子與為頭得無小異乎本州諸說云以元種者為為頭附為頭傍而生者為附子如此則當年之為頭即是去年之附子當年之附子即是來年之為頭矣分為附是為若不可求則用為頭之附子亦不為不可若可求則不如用子所定附子草之附子猶與紫葍之子不與紫葍之子甘美也本州又謂三四月來為為頭此用附子植地及芽初生時掘取者猶芽也故子曰附子為頭可相通用非過論也概論之兩者世用不甚相遠若無附

子則用為頭亦可天雄側于漏籃于等亦非不可但詳審其細微則有小異耳
筆記
附子為頭一類異種而以母一顆有子子附者故曰之附子如為頭則以似為鴉頭故曰之為頭

子則用為頭亦可天雄側于漏籃于等亦非不可但詳審其細微則有小異耳
筆記
附子為頭一類異種而以母一顆有子子附者故曰之附子如為頭則以似為鴉頭故曰之為頭

大分県杵築市連携締結式

● 薬用植物国内栽培事業委員会 清水 虎雄 ●

1. 大分県杵築市の概要

2015年7月30日、7番目に「薬用植物国内栽培の促進に関する協定」を締結する杵築市は、人口約3万2千人の旧城下町である。大分県の北東部に位置し、国東半島にあり、大分市と別府市に挟まれている。産業は先端技術産業もあるが、主要産業はハウスみかん等の柑橘類、焼酎類、きつき茶やどんこ等の農林水産業である。

江戸時代は杵築藩松平氏3万2千石の城下町で、現在でも侍屋敷や土堀その谷間に町家が続き、「坂道の城下町」の景観は、往時の面影を残した九州の小京都と称されている。

また、天然の要害、別府湾に面して築城された、我が国で一番小さいと言われている端麗な姿の杵築城が美しい。

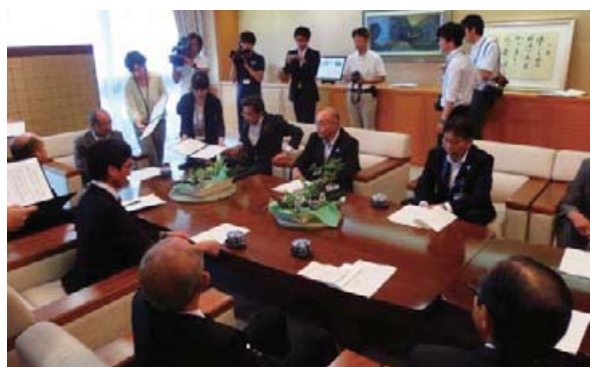
杵築市は豊富にある温泉の地熱の利用や約1,000mの高低差がある耕作地があり、いろいろな生薬の試作・試験栽培に適しているのではと思われる。



左から川原センター長・藤井会長・大分県広瀬知事・杵築市永松市長

2. 県庁知事室での締結式

今回の締結式は、大分県の知事応接室で行われた。異例ではあるが、大分県も県の施設を提供する事も含め、大いに期待を示し、締結式は、広瀬大分県知事が立会人となり執り行われた。



県知事室での締結式

3. 各代表者の挨拶

永松杵築市長は、今回の締結式の意義について、市の主要産業である農業も、その環境は、年々厳しくなり、農業従事者の高齢化や離農、遊休農地の拡大等の解決しなければならない課題が山積している。そのような現状を打開するために、中山間地で栽培可能な新たな品目を模索し検討してきた。

この所、我が国で輸入品の品質や安全性の問題から、漢方薬、生薬の国産化推進の機運が高まっていることに着目し、安全で高品質な原料の供給と中山間地で栽培可能な新たな品目を検討し、最終的には薬用植物の産地化を目指して積極的に取り組んでいきたいと思う。

今後、国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所薬用植物資源研究センター等から種子や種苗の提供を受け、当協会の指導、助言を受けながら、昨年末に閉校になった県立山香農業高校の圃場を、県から借り受け、公益社団法人杵築市地域活性化センターが試験栽培を行い、産業化を目ざしていきたい。

当協会会長は初めて、九州の地、大分県杵築市で栽培事業の推進ができることは、大変大きな喜びである。既に6個所の自治体と締結書を交わしている。秋田県では、カミツレ等実生産が初められ、産業化されており、今後ますます顔の見える、トレサビリティのはっきりした生薬の需要は確実に高まると思う。

今回の締結式には、初めて県知事が立会人になっていただき、我々もしっかりサポートしなければと、心を新たにしました。

薬用植物資源研究センターの川原センター長は、既に28種類の薬用植物の種子、種苗等を提供しているが、これからも出来る限りの協力をしていくつもりである。

その後、三者で締結書に署名し交換の上、今後の協力を誓い、硬い握手を交わした。

締結式参加者、大分県広瀬知事、杵築市永松市長、県農林水産尾野部長、県東部振興局榎局長、県園芸振興室茅野室長、薬用植物資源研究センター川原センター長。

終了後、別室において、県や市の農業関係部局や関係者が約50人参加し、講演会が開催された。

4. 特別講演

演者は末次大作専務理事

演題は、『なぜ今、国産生薬の栽培か』

ー公益社団法人東京生薬協会における薬用植物国内栽培の取り組みー

- ①公益社団法人東京生薬協会の概要
- ②なぜ今、薬用植物の国内栽培か
- ③薬用植物国内栽培の現状と課題
- ④製薬会社が求める生薬
- ⑤製薬企業としての生薬確保の考え方
- ⑥当協会における薬用植物国内栽培のしくみ
- ⑦協定自治体とその栽培状況
- ⑧試験栽培実施、各地における栽培状況を写真で紹介

受講者は、1時間30分、メモを取りながら、熱心に受講した。杵築市の取り組みの、熱心さと本気度を感じた、盛況の講演会であった。



記念講演 末次専務理事

センター内には温泉熱利用の温室26棟、ミスト栽培棟が1棟あり、この施設内ではオリジナル品種のヤマジノギクをはじめ、八重トルコキキョウ、ホウズキ、バラ、コチョウラン等の花き類の研究栽培を行っている。

この施設を利用し、薬用植物資源研究センターから譲り受けたキキョウ、コガネバナ、インチンコウ等の種子、ハナスゲ、バクモンドウ、イカリソウ等の苗等、28種類の生薬の育種、育苗を行っている。この秋には露地に移植を計画しているようであるが、まだ生育途上で小さすぎるようだ。

その次に訪問したのは、今春統廃合された県立山香農業高校の野菜類の研究栽培地52aのキャベツ等の野菜栽培を行っていた農地を利用し、生薬の試作栽培を行い、適性の良い物から順次、農家に種苗を提供し産業の活性化を図りたいと期待している。

協会からの参加者：藤井隆太会長、末次大作専務理事、加賀亮司、岡田稔、松本克彦、小林伸太郎、斉藤夫妻、田中建次、山上勉、清水虎雄



大分県農林水産研究センター 花卉研究所 生薬育苗状況



大分県農林水産研究センター花卉研究所



旧県立山香農業高校栽培跡地



杵築 酢屋の坂

5. 試作栽培の圃場等を視察

2日目は、杵築市担当者の案内で実際の試作栽培地の視察を行った。

最初に尋ねたのは、生薬の種苗試験栽培を進めている、大分県農林水産研究指導センター花き研究所である。この施設は別府鉄輪温泉のエリアにあるため、100℃の温泉水が吹き出しており、その蒸気は120℃もある。温泉水は利用せず、この蒸気を利用し花きや野菜の新品種等の育成と研究試験栽培を行っている。



別府湾に浮かぶ杵築城

第66回日本東洋医学会学術総会への参加報告

● 薬用植物国内栽培事業委員会 清水 虎雄 ●

「伝統の継承と新たな展開—医療の幹線をめざして—」をテーマに2015年6月12日～14日の3日間、富山市富山国際会議場、富山市民プラザ、ANAクラウンプラザホテル富山にて開催された。

参加人数は、有料参加者総数約2500人。

その中で、初日一番に開催されたシンポジウム3「生薬のサステナビリティ」に演者・パネリストとして参加した。

座長は富山大学和漢医薬学総合研究所生薬資源科学分野小松かつ子所長、研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所吉松嘉代先生。

◎最初の演者は小生、演題は「日本国内での生薬栽培の取り組み」

◎「富山県ブランド芍薬の創生に向けた基礎研究」朱 姝先生（富山大学和漢医薬学総合研究所生薬資源科学分野）

◎「植物工場による重要生薬の生産とその評価」吉松嘉代先生（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所）

◎「農水省・厚労省・日漢協連携による薬用植物国内栽培の産地化に関する取り組みについて」

浅間宏志先生（日本漢方生薬製剤協会生薬委員会）

◎「CBD名古屋議定書と生薬資源へのアクセス」炭田精造先生（一般財団法人バイオインダストリー協会・生物資源総合研究所）

小生は「日本国内での生薬栽培の取り組み」をテーマに、これまでの協会の取り組みについて、パワーポイントを用い、次のレジュメにより、説明した。

演題：日本国内での生薬栽培の取り組み

演者：清水 虎雄

所属機関：当協会 薬用植物指導員

1 主旨・理念

当協会は、昭和28(1953)年社団法人として設立された。その趣意書に「優良生薬の安定的確保と品質の向上」を掲げて以来、その実現を図

ることが本来の使命の一つである。

したがって薬用植物の国内栽培に対する支援事業は、当協会の理念にも叶うものである。

2 現状と国内栽培の必要性と公益性

医薬品の原料となる生薬の供給は約9割が輸入に依存しており、またそのうちの約9割が中国からの輸入に頼っている。

近年輸入国でのカントリーリスクの増大や価格の上昇、品質のばらつき等の課題が顕著になりつつある。

一方、国内においても衰退する農業の活性化のひとつとして、また、米やタバコの代替作物のひとつとして薬用植物が注目されており、その栽培について平成25年度からは国の補助金事業も開始され、全国の自治体等の関心が高まってきている。

また、消費者の安全・安心の観点からも生薬のトレーサビリティが明確な国内産生薬の確保が注目されている。

3 使命感

このような現状を踏まえ、薬用植物の栽培技術や優良薬用植物の種苗の提供等、薬用植物の栽培に果たす役割に関し、多くの知識経験を有している当協会としては、公益性の高い事業として、平成26年度から本格的に薬用植物の国内栽培に対する支援を拡充してきた。

4 栽培地の受け入れ手法

栽培地からの事業支援の受け入れは、薬用植物栽培を希望する自治体等の要請により、要請先の農地や気候等を調査し、協会内で検討し、了解された自治体等と協定を結ぶことになる。この協定に基づき、協会は、栽培経験豊富な栽培指導員を自治体等に派遣することになる。

また、原種となる薬用植物の種苗（一部種苗は、国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所薬用植物資源研究センターや東京都薬用植物園等からの分譲を受けている）や栽培技術を提供する事業を展開するものである。

5 栽培地の確保

薬用植物国内栽培を希望する自治体と連携協定を締結した自治体は、平成27年5月現在、秋田県八峰町、秋田県美郷町、新潟県新潟市、新潟県新発田市、福井県高浜町、岐阜県岐阜市の6か所である。

この3月には、福井県高浜町と岐阜県岐阜市と締結書を交換し、多くのマスコミも高い関心を示し取材に来られた。

さらに、秋田県八峰町からの依頼により、3年間の栽培指導期間延長の連携協定締約式が行われることになった。

また、今回変わったところでは、テレビ東京の人気番組、村上龍と小池栄子がメインキャスターの「カンブリア宮殿」の取材依頼があり、3日間の追っかけ取材があった。

6 最初の締結自治体「秋田県八峰町」の取り組み

江戸時代から甘草等の薬用植物が栽培されていた秋田県では、生薬栽培に関心が高く、早い時期から照会があり、平成24年に提携することになった。

当時、秋田魁新報に大きく締結式の模様が報道された。

7 平成27年1月4日の読売新聞の記事

この記事に事業の内容が端的に記載されていたので紹介する。

「秋田 増やせ漢方薬農家」の見出しで、製薬メーカーの国産志向も追い風。米価下落で思惑一致と紹介された。

この記事の内容は、秋田県内で休耕田を活用して漢方薬原料の薬用植物を栽培する動きが広がって、主な原料調達先を中国から国産へと変更したい漢方薬メーカーと、米価下落等の逆風下で生き残りをかける農家側の思惑が一致。農家は生産組合を組織して薬草栽培のノウハウを共有するなど高収益の農業経営を模索している。

さらに、国産生薬原料に対する漢方薬メーカーの期待は大きく、業界団体の当協会は平成25年から「生薬の里構想」を掲げる美郷町と協定を締結。同町では、のどや肝臓の薬の原料となるカンゾウ等の栽培が行われている。平成24年からウイキョウやカミツレなどの試験栽培に取り組み八峰町の担当者も「栽培のノウハウや採算性が確認できた品種から、町内の農家で本格栽培を始めたいと期待を寄せている」と紹介された。

8 八峰町の試作状況と平成27年度の栽培予定

試作栽培では、無農薬栽培を行っている。カミツレ、キキョウについては、収穫方法等多少問題はあるが、実生産のめどがついてきたので、本年度より農家の畑で実生産を開始した。

また、トウキ、セネガ、センブリについては経過観察品目とし、カミツレ、キキョウの試作栽培終了後に試作する重点品目とした。

本年は、農機具メーカーに協力をいただき、収穫調整等の機械化を検討する予定である。

9 平成27年度の各試験栽培地での栽培品目の予定

	栽培地	主な栽培品目	栽培品目数
1	八峰町	カミツレ、キキョウ	10品目
2	美郷町	カンゾウ、キキョウ、ノイバラ	3品目
3	新発田市	ヤマトウキ、シャクヤク	12品目
4	新潟市	ミシマサイコ、ハッカ	19品目
5	高浜町	セリバオウレン、ゲンノショウコ	17品目
6	岐阜市	ミシマサイコ、カワラヨモギ	10品目

10 今後の取組

当協会の藤井会長は「生薬原料の大半は中国に頼っているが、秋田県産はじめ国産生薬ができれば、製品の魅力が増すことは間違いない。薬用植物栽培を希望する多くの自治体、生産者との出会いは、製薬企業にとって朗報です。農家、企業の枠組みを超えて取り組み、一つの事業としての道筋を作りたい。締結者はお互いに手をたずさえて努力をして行きたい。」と期待と決意を述べている。

当協会 相談役 柴田承二先生の100歳誕生日をお祝い申し上げます。

● 公益社団法人東京生薬協会 会長 藤井 隆太 ●

日頃、先生にご指導を受けている者を代表致しまして、10月23日のお誕生日をお元気に迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

先生には、永きに亘り相談役として今日までご指導頂きましたことは大変栄誉なことと思っております。

昔から生薬専攻の先生方は長寿と承っておりましたが、先生が率先実行されてることを、私どもは光栄と思ひ、後に続く所存しております。これからもご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

会員の方々に改めて柴田先生のご紹介をさせていただきます。

先生は承桂一桂太一承二と続く、東京大学名誉教授3代目で、東京大学生薬学教授・薬学部学部長を勤められ、定年退職後は明治薬科大学生薬学教授となられました。その間、多くの生薬学研究者を育てられ、さらに日本薬学会会頭、正倉院御物調査員に、また、日本学士院賞、勲二等旭日重光章を受賞され、平成9年には文化功労者となられました。海外では英国化学会 センテナリーレクチャーシップ及び銀メダル、ドイツ・ミュンヘン大学名誉学位、ユネスコ・アルバート・アインシュタイン銀メダルミレニアル・薬科学者賞を受賞されています。



平成15年 当協会創立50周年記念式典にて

・ 委 員 会 だ よ り ・

総務委員会

委員長 菅沢 邦彦

1.平成27年度 総務委員会を以下の通り開催した。

- ・ 第1回：平成27年 4月21日(火)
- ・ 第2回：平成27年 8月18日(火)
- ・ 第3回：平成27年10月20日(火)
- ・ 第4回：平成28年 2月16日(火) 開催予定

2.平成27年度上期収支決算

平成27年度上期収支決算が承認された。

3.委員会委員等の新任・退任

以下のとおり新任・退任が承認された。

(1)総務委員会：

退任者：梶野謙三（株式会社龍角散）

新任者：坪井正樹（株式会社龍角散）

(2)薬用植物国内栽培事業委員会

新任者：北浦久史

（ユニバーサル・システム株式会社）

(3)栽培指導員 12名（以下2名含む）

新任者：白鳥 誠（株式会社ウチダ和漢薬）

新任者：山上 勉（公益社団法人東京生薬協会）

4.会員の入退会

- ・ 入会：4件、退会：3件
- ・ 平成27年10月20日現在会員数133名
（法人正会員45名、個人正会員46名、サポーター42名）

5.平成27年度 第3回理事会・第2回総会開催日程

- ・ 第3回理事会
日時：平成28年 3月 8日(火) 16:30～18:00
場所：公益社団法人東京生薬協会東神田事務所
- ・ 第2回総会
日時：平成28年 3月24日(木) 16:00～17:00
場所：東京薬業厚生年金基金会館

6.定款、規程の一部変更について

①「支払規程」、②「会計処理規程」、③「顧問及び相談役に関する内規」の一部変更(案)を平成27年度 第2回理事会に上程し、承認された。

7.イベントの活動状況

1) 「OTC普及啓発イベント」

- ・ 開催日：平成27年9月11日(金)～9月12日(土)
- ・ 会 場：新宿西口イベントコーナー
- ・ 出 展：30店舗
- ・ 来場者：約3万人(会場管理会社推定)

2) 薬祖神例大祭開催

- ・ 開催日：平成27年10月16日(金)13:30～18:30
- ・ 場 所：昭和薬貿ビル屋上神社
- ・ 参拝者数：2,563人
- ・ 薬用植物生け花展：東京都薬用植物園より

薬草22種を提供。

悪天候にもかかわらず、参拝時間前から多くの方が参列された。

平成28年8月下旬を目途に薬祖神社殿が中央区日本橋室町二丁目「南街区広場」に遷座される予定。

3) 薬草収穫感謝の会

・ 開催日：平成27年11月7日(土)10:00～15:00

・ 会 場：東京都薬用植物園

<感謝の会行事>

<講演会>

講 師：清水虎雄(元東京都薬用植物園 園長)

演 題：「伝統薬と動物生薬」

<薬用植物園見学会>

共催である東京都から、東京都健康安全研究センターの田原なるみ所長、守安貴子医薬品研究科長、灘岡陽子健康危機管理情報課長の3名にご列席いただいた。

朝日新聞の朝刊に薬草収穫感謝の会の広告が掲載されたこともあり、来園者数は1,123人、講演会も定員100人のところ192人の方が受講され、過去最高の記録となった。

学術委員会

委員長 山内 盛

平成27年9月16日に学術委員会を開催した。

I.1号事業

1. 「秋の薬草観察会」

平成27年10月24日明治薬科大学資料館・薬草園で実施した。参加者51名。

2. 「第31回生薬に関する懇談会」

日本生薬学会関東支部との連絡会で第21回～第30回までの要旨集を、DVD化し、発刊することが決定された。

3. 「薬用植物・生薬に関する講座」

第1回講座を平成27年10月25日に開催した。参加者55名。

「神農本草経からの薬剤」 小根山隆祥

「世界の伝統薬の養生を訪ねて」 山内 盛

4. 「新常用和漢薬集改訂作業」

ボクソク、ヤクモソウ、ビワヨウ、イレイセン、キョウカツ、クジン、ケイガイ、コウブシ、サンソウニン、シユクシヤ、ソウジュツの11品目の審議を終了し、HPに掲載した。

5. 「薬草クイズラリー」

7月26日に薬草園で実施。午前午後併せて、76名の参加があったが、明年度開催に対しては猛暑対策を十分に検討することを申し合わせた。

II. 3号事業

1. 「日本薬局方原案審議委員会への参加」

委員3名を派遣し、討議に参加している。その結果は10月15日、厚労省から「局外生規2015」としてパブコメが公表された。引き続き「JP17」の作業を進行中。

III. その他

1. 正・副委員長の交代

小根山委員長の顧問就任に伴い、新たに委員長に山内委員、副委員長に清水委員が選任された。

薬用植物園事業管理委員会

委員長 加賀 亮司

1. 平成27年度事業管理報告

執行状況(平成27年4月1日～平成27年9月30日)

	上半期	年間
予算額	24,225,638円	49,662,634円
執行額	22,861,190円	22,861,190円
予算残	1,364,448円	26,801,444円

上半期の収支は1,364,448円の予算残金で終了し、堅調な執行状況であった。

2. 来園者状況

9月までの来園者は74,344人で前年を6,881人下回った。原因は研修室横のジャバラ柵が壊れていて4月～6月中旬までそこからの入退園が可能で、4、5月の来園者のカウントが前年より大幅に減少したかと考えられるが、実際は前年同様の来園者と思われる。

3. イベント実施状況

平成27年度イベントは計画通り上半期に薬草教室6回、薬草観察会1回、その他イベントを4回開催済みで、今後も予定通り進める。

草舎舎事業のイベントは予定通り上半期に8回開催された。

4. 栽培管理

前年に引き続き管理体制のもと、円滑な栽培管理を行った。

都職員と「栽培報告会」及び「栽培連絡会」を月1回開催して進めている。

5. 委員会活動

(1) 定期委員会

- ・ 第1回事業管理委員会 5月14日開催
 - 1) 平成26年度受託事業報告
 - 2) 委員会活動の確認と運営

3) その他(70歳定年制の検討)

・ 第2回事業管理委員会 9月10日開催

- 1) 第1四半期事業管理の報告
- 2) 栽培管理
- 3) 平成28年度事業計画の検討
- 4) その他(山桜枝折れ対策、サポーターのケシ見学)

(2) ワーキンググループ

- 第1回会議 平成27年 4月 9日
- 第2回会議 平成27年 6月17日
- 第3回会議 平成27年 7月16日
- 第4回会議 平成27年10月 6日

薬用植物国内栽培事業委員会

委員長 金井 藤雄

1. 第2回薬用植物国内栽培事業委員会(5月22日開催)

(1) 八峰町栽培連携協定について

平成27年6月11日、秋田県八峰町と公益社団法人東京生薬協会、国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所との間で「薬用植物の国内栽培の促進に関する連携協定」の調印式を八峰町役場で行った。

3年間の試験栽培を経て農家の圃場で本格栽培を行う。

(2) 各協定自治体(八峰町、新発田市、新潟市、高浜町・岐阜市)の栽培状況

(3) 協力要請のある自治体等の状況

大分県杵築市の農業高校における種苗生産等については、今夏に協定の準備に入り、早ければ秋植えのものから試作を開始。

(4) 北里大学東洋医学研究所の文部科学省革新的イノベーション創出プログラムトライアル課題については、北海道八雲町、青森県十和田市と協定締結予定。

2. 第3回薬用植物国内栽培事業委員会(7月14日開催)

(1) 各協定自治体(八峰町、美郷町、新潟市、新発田市、岐阜市、高浜町)の栽培状況は、課題はあるが現在のところ順調である。

(2) 大分県杵築市栽培連携協定式について

平成27年7月30日、第7番目の連携協定として、大分県杵築市と公益社団法人東京生薬協会、国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所との間で「薬用植物の国内栽培の促進に関する連携協定」を大分県の広瀬知事立ち会いのもと県庁で調印式を行った。

西日本では初めての協定で、大分県の農学校の廃校跡地を活用して種苗を生産する予定。

3. 第4回薬用植物国内栽培事業委員会(9月8日開催)

- (1) 各協定自治体（八峰町、美郷町、新潟市、新発田市、岐阜市、高浜町）の栽培状況は畑地管理にたいして一部の地域に課題があるので、今後は正を図る。
- (2) 北里大学は、研究拠点として文部科学省「センター・オブ・イノベーション(COI)プログラム」活動を行っている。この中で、NMRを用いた新しい生薬の品質評価法開発をテーマにしており、様々な条件下で栽培された多くの生薬サンプルを分析・比較検討する必要がある。会員各社が取扱っておられる生薬サンプルを提供いただく。

4. 第5回薬用植物国内栽培事業委員会(11月10日開催)

- (1) 新規会員紹介
北浦 久史 (ユニバーサル・システムズ(株))
- (2) 栽培指導委員会と役割の明確化について
・第1回栽培指導委員会の実施 平成27年11月10日(火)
- (3) 北里大学COI研究契約について
第2回理事会にて承認され共同研究開発基本契約を締結予定
- (4) 栽培地と栽培指導員の担当地

	協定栽培地		栽培指導員	
1	秋田県八峰町	岡田 栽培指導委員長	加賀・白鳥	年4回
2	秋田県美郷町		加賀・白鳥	年3回
3	新潟県新発田市		田中	年8回
4	新潟県新潟市		田中	年8回
5	福井県高浜町		小谷・磯田	年8回
6	岐阜県岐阜市		高橋・川又	年8回
7	大分県杵築市		山上	年8回

参列されました。来年度以降は日本橋二丁目開発計画の南街区広場に遷座されるため、屋上神社での例大祭は今回が最後となりました。

平成27年11月7日に薬草収穫感謝の会が東京都薬用植物園で盛大に開催されました。この感謝の会も朝日新聞に広告が掲載されたこともあり、講演会や薬用植物園見学会には大勢の方が参加されました。

一方、ホームページの訪問者数も順調に増加しており平成27年度上期(2015.04.01~2015.09.30)は前年同期と比べて約50%の増加でした。よくみられているページはお花の見頃情報や新常用和漢薬集などです。新常用和漢薬集に新たに11品目を追加し、合計掲載品目数は106品目となりました。アクセス数が多く注目度が高いため、今後は随時追加していく予定です。

■ホームページへのアクセス状況

年度/期	期間	訪問数	ユーザー数	ページビュー数
H26上期	2014.04.01~ 2014.09.30	27,750	17,334	99,769
H26下期	2014.10.01~ 2015.03.31	25,931	16,773	73,405
H27上期	2015.04.01~ 2015.09.30	41,752	27,406	120,206
	上期比較	150.5%	158.1%	120.5%

広報委員会

委員長 野田 吉孝

「会報」460号をお届けいたします。

当協会の事業として薬用植物の国内栽培に対する支援を行なっておりますが、平成27年7月に大分県杵築市と栽培連携協定を締結しました。これで協定自治体は7箇所となりました。

平成27年9月11日~12日にOTC医薬品啓発イベント「よく知って、正しく使おうOTC医薬品」が新宿西口広場イベントコーナーで開催されました。事前に朝日新聞に広告が掲載されたこともあり3万人の方が来場されました。イベントでは正しい薬の使い方の説明や、血糖値の自己測定の実施などを行ないました。

平成27年10月16日に薬祖神例大祭が開催されました。昭和薬貿ビル屋上神社での最後の例大祭でもあり、悪天候にもかかわらず大勢の方が

連絡事項

I. 平成27年度第2回理事会

日 時：平成27年11月9日(月)16:30～18:00
場 所：東京生薬協会東神田事務所

1. 審議事項

- (1) 委員会規程一部変更について
- (2) 会員の入退会について
 - 1) 法人正会員：ユニバーサル・システムズ株式会社
代表取締役 滝口 哲郎
 - 2) サポーター：3名
- (3) 委員会委員の退任新任について
 - 1) 総務委員会
退任者：梶野 謙三（株式会社龍角散）
新任者：坪井 正樹（株式会社龍角散）
 - 2) 薬用植物国内栽培事業委員会
新任者：北浦 久史
(ユニバーサル・システムズ株式会社)
栽培指導員
新任者：白鳥 誠（株式会社ウチダ和漢薬）
新任者：山上 勉（公益社団法人東京生薬協会）
- (4) センター・オブ・イノベーション(COI)プログラム
共同研究開発基本契約について

2. 報告事項

- (1) 平成27年度上期事業報告と収支報告
- (2) 第3回理事会、第2回総会開催日程
- (3) 平成27年度OTC普及啓発イベント実施報告
- (4) 委員会報告
 - 1) 総務委員会：菅沢委員長
 - 2) 学術委員会：山内委員長
 - 3) 広報委員会：野田委員長
 - 4) 事業管理委員会：加賀委員長
 - 5) 薬用植物国内栽培事業委員会：巽副委員長

II. 行事報告

1. 平成27年度薬草教室

- (1) 第4回
開催日：平成27年7月8日(水)10:00～11:30
場 所：東京都薬用植物園
テーマ：徳川吉宗と薬草
講 師：南雲清二(星薬科大学名誉教授)
参加者：169名
- (2) 第5回
開催日：平成27年8月27日(木)10:00～11:30
場 所：東京都薬用植物園
テーマ：熱中症、夏の漢方薬
講 師：大野修嗣(大野クリニック院長)
参加者：114名

(3) 第6回
開催日：平成25年9月25日(金)10:00～11:30
場 所：東京都薬用植物園
テーマ：昆虫から見た植物の世界
講 師：佐々木正巳(玉川大学名誉教授)

参加者：93名
(4) 第7回
開催日：平成25年10月22日(木)10:00～11:30
場 所：東京都薬用植物園
テーマ：身近な薬の原料植物
講 師：磯田 進(昭和大学薬学部非常勤講師)

参加者：107名
(5) 第8回
開催日：平成25年11月26日(木)10:00～11:30
場 所：東京都薬用植物園
テーマ：ブルガリアのバラと野草
講 師：指田 豊(東京薬科大学名誉教授)

参加者：83名

2. OTC医薬品普及啓発イベント

日 程：平成27年9月11日(金)～12日(土)
場 所：新宿西口イベント広場
テーマ：よく知って、正しく使おうOTC医薬品
参加者：約3万名

3. 秋の薬草観察会

開催日：平成27年10月24日(土)13:00～16:30
場 所：明治薬科大学資料館・薬草園
講 師：小根山隆祥・和田浩志・清水虎雄
参加者：51名



秋の観察会集合写真

4. 薬用植物・生薬に関する講座

(1) 第1回

開催日：平成27年10月25日(日) 12:30~15:45

場 所：東京都薬用植物園

講 師：小根山隆祥・山内 盛

参加者：55名

(2) 第2回

開催日：平成27年11月29日(日) 12:30~15:45

場 所：東京都薬用植物園

講 師：清水虎雄・伊澤和光

参加者：60名

5. 八峰町栽培地視察、連携協定締結式

開催日：平成27年 6月11日(木)~12日(金)

場 所：八峰町役場 大会議室

講 師：15名



八峰町調印式



八峰町調印式集合写真



6. 大分県杵築市栽培地視察、連携協定締結式

開催日：平成27年 7月30日(木)~31日(金)

場 所：大分県庁本館 貴賓室

参加者：12名



杵築市調印式



大分県庁貴賓室

7. 薬祖神祭 薬用植物生け花展

開催日：平成27年10月16日(金)

場 所：昭和薬貿ビル 2F 直会会場

8. 美郷町栽培地視察・収穫、記念植樹

開催日：平成27年11月 2日(月)~3日(火)

場 所：美郷町薬用植物栽培圃場、美郷町住民活動センター

植樹／平場の森 (旧千畑南小グラウンド)

参加者：12名



平場の森 植樹 藤井会長挨拶



飯田先生 講話



講演会



松田町長、藤井会長、高橋議長

10. 製薬会社工場見学

開催日：平成27年11月25日(水)

場 所：大正製薬株式会社 大宮工場

参加者：18名



工場見学 集合写真



平場の森記念植樹事業

11. 第31回生薬に関する懇談会

開催日：平成27年12月5日(土)

場 所：星薬科大学 新星館

テーマ：桔梗

参加者：336名

9. 薬草収穫感謝の会

開催日：平成27年11月7日(土)

場 所：東京都薬用植物園

講 師：清水虎雄

講演会参加者：192名

園内見学講師：小根山隆祥・山内 盛・磯田 進・清水虎雄

来園者：1,123名



第31回生薬に関する懇談会



薬草収穫感謝式典

● 公益社団法人東京生薬協会 平成27年度事業報告

事業		テーマ	日程	場所	講師(敬称略)	人数	
1号事業 (学術委員会)	薬草観察会	春	春の薬草観察会	平成27年 5月24日(日)	長沼公園(八王子)	小根山・和田・高橋・磯田・鈴木・南雲	106
		秋	秋の薬草観察会	平成27年10月24日(土)	明治薬科大学資料館	和田・清水・小根山	51
	生薬に関する懇談会	第31回	桔梗(キキョウ)	平成27年12月 5日(土)	星薬科大学	日本生薬学会と共催	336
	薬用植物・生薬に関する講座 (テーマ:セルフケアを高める生薬・漢方)	第1回	神農本草経からの薬劑世界の伝統薬の養生を訪ねて	平成27年10月25日(日)	東京都薬用植物園	小根山隆祥(東京生薬協会顧問)、山内盛(東京生薬協会学術委員長)	55
		第2回	伝統薬(漢方薬)で薬を調製することで「なごみ、心臓健康、脳卒中、遠赤外線放射(赤外線)」	平成27年11月29日(日)	〃	清水虎雄(東京都薬用植物園園長)、伊澤和光(いざわ漢方クリニック院長)	60
		第3回	体を温める女性のための漢方健康に生きる心の養生法	平成28年 1月31日(日)	〃	高木 薫子(ヨシコクリニック院長)、袴澤 彰(青山ササキクリニック院長)	63
		第4回	食同源ー健康法 ストレス、消化器(胃腸)と漢方	平成28年 2月28日(日)	〃	池上健行(東京薬科大学薬学センター)・佐藤 隆(佐藤漢方クリニック院長)	66
第5回	富士山の薬草 日常によく見られる病の漢方によるセルフケア	平成28年 3月27日(日)	〃	磯田 進(昭和大学薬学部非常勤講師)、山田 享弘(金匱会診療所 所長)	65		
新常用和漢薬集の改訂	旧版収載の和漢薬(236品目)について内容を見直し、ホームページに106品目公開、現日本薬局方(16局)と照合し、改訂作業を実施					11品目追加	
1号事業 (総務委員会)	薬草収穫感謝の会	生薬・薬用植物の一年の収穫を感謝し、講演会、植物観察会を開催する。	平成27年11月 7日(土)	東京都薬用植物園	共催:東京都、(公社)東京生薬協会、(公社)東京薬事協会、本町生薬協会	192 来賓約1,123	
1号事業 (事務局)	OTC医薬品普及啓発イベント	第7回	よく知って、正しく使おうOTC医薬品	平成27年 9月11日(金) ・12日(土)	新宿西口イベント広場	共催:6団体(東京生薬協会、東京薬事協会、日本家庭薬協会、日本OTC医薬品協会、東京都薬剤師会、東京都医薬品登録販売者協会) 後援:東京都、厚生労働省、日本商工会議所、東京薬科大学	約3万
1号事業 (広報委員会)	会報の発行	第459号	平成27年 7月24日(金)	会報No.459/2015.7.24発行 巻頭言:川原信夫 寄稿:小根山隆祥、春日伊藤、池上文雄、和田浩志、清水虎雄、生薬解説:指田豊、総頁数:22頁		450部	
	協会ホームページの更新	「お花の見ごろ情報」「最新イベント情報」「新常用和漢薬集」「協会概要」「薬用植物園内栽培事業」等の更新					
1号事業② (事業管理委員会)	薬草教室	第1回	日々の暮らしと生薬	平成27年 4月23日(木)	東京都薬用植物園	笠原 良二 (㈱ツムラ特販課課長)	121
		第2回	江戸の伝統野菜と健康	平成27年 5月21日(木)	〃	山内 盛 (東京生薬協会学術委員)	123
		第3回	漢方とアンチエイジング	平成27年 6月26日(金)	〃	新井 信 (東海大学医学部准教授)	105
		第4回	徳川吉宗と薬草	平成27年 7月 8日(水)	〃	南雲 清二 (星薬科大学名誉教授)	169
		第5回	熱中症、夏の漢方薬	平成27年 8月27日(木)	〃	大野 修嗣 (大野クリニック院長)	114
		第6回	昆虫から見た植物の世界	平成27年 9月25日(金)	〃	佐々木 正巳 (玉川大学名誉教授)	93
		第7回	身近な薬の原料植物	平成27年10月22日(木)	〃	磯田 進 (昭和大学薬学部非常勤講師)	107
		第8回	ブルガリアのバラと野草	平成27年11月26日(木)	〃	指田 豊 (東京薬科大学名誉教授)	81
	イベント事業	第1回	春の薬膳 旬の食材～春	平成27年 4月 4日(土)	〃	山上 勉 (草星舎共催)	54
		第2回	ロックガーデンの四季	平成27年 4月11日(土)	〃	池村 国弘 (草星舎共催)	29
		第3回	ハーブの押し花で葉書づくり	平成27年 4月18日(土)	〃	小泉 美智子 (草星舎共催)	28
		第4回	ケンのパネル展	平成27年5月1日(金)～22日(金)	〃	ケン畑の前	—
		第5回	ケンのミニ講座	平成27年5月9日(土)・10日(日)	〃	薬用植物園職員	135
		第6回	グリーン・リース教室	平成27年 5月23日(土)	〃	田淵 清美 (草星舎共催)	23
		第7回	夏の食養生 旬の食材で健康	平成27年 6月 6日(土)	〃	山上 勉 (草星舎共催)	39
		第8回	癒しのアロマセラピー	平成27年 6月13日(土)	〃	鈴木 悦子 (草星舎共催)	28
		第9回	ハーブと夏の暮らし	平成27年 7月11日(土)	〃	小泉 美智子 (草星舎共催)	21
		第10回	薬草クイズラリー	平成27年 7月26日(日)	〃	東京生薬協会	76
第11回	夏休み親子植物教室	平成27年 8月 8日(土)	〃	中山 麗子	44		
第12回	やさしい草木染	平成27年 9月26日(土)	〃	山 浩美 (草星舎共催)	35		
第13回	晩秋の薬膳	平成27年11月14日(土)	〃	山上 勉 (草星舎共催)	43		
第14回	冬の温もり・手湯	平成27年12月12日(土)	〃	小根山隆祥 (草星舎共催)	30		
第15回	木の実・草の美リース作り教室	平成27年12月16日(水)	〃	中山 麗子	39		
第16回	健康講座	平成28年 2月12日(金)	〃	東京薬事協会共催			
第17回	落語の世界のくすりと薬草	平成28年 3月 5日(土)	〃	一升亭 吾介 (草星舎共催)			
第18回	スプリング・エフェメラル 夏の目覚め	平成28年 3月26日(土)	〃	吉澤 政夫 (草星舎共催)			
2号事業 (栽培事業委員会)	大分県	「なぜ今、国産生薬の栽培か」	平成27年 7月30日(木)	大分オアシスタワーホテル	末次 大作 (専務理事)	48	
3号事業 (栽培事業委員会)	薬用植物園内栽培の実施	秋田県八峰町、秋田県美郷町、新潟県新発田市、新潟県新潟市、福井県高浜町、岐阜県岐阜市、大分県杵築市の7自治体にて試作栽培の実施					
	八峰町視察研修	八峰町栽培地視察、連携協定締結式	平成27年6月11日(木)・12日(金)	八峰町役場 大会議室	薬用植物栽培連携協定締結式	15	
	杵築市視察研修	大分県杵築市栽培地視察、連携協定締結式	平成27年7月30日(木)・31日(金)	大分県庁本館 貴賓室	薬用植物栽培連携協定締結式	12	
美郷町視察研修	美郷町栽培地視察・収穫、記念植樹	平成27年11月2日(月)・3日(火)	美郷町薬用植物栽培圃場	収穫(カンゾウ、キキョウ)	11		
4号事業 (学術委員会)		てのひら薬草園	平成27年 4月25日(土)	植物の解説ラベル約700種にQRコード貼付		9	
	薬用植物指導員認定者フォローアップ研修	ケンの見学・研修	平成27年 5月 8日(金)	柵内での見学、研修室での座学研修		14	
		製薬会社工場見学	平成27年11月25日(水)	大正製薬株式会社 大宮工場		21	
共通事業 (総務委員会) (事務局)	ICMCM	香港ICMCM「漢方薬及び健康食品展示会」で東京都薬用植物園のポスター、薬用植物園内栽培事業のポスターを展示					
	薬祖神祭 薬用植物生け花展	ヤマハギ、サンシュユ、ホソバオケラ、シオン、オミナエ、メハジキ、カワミドリ、ケイガイ、シソ、ヒキオコソ、フレモコウ、ペンケイノウ、フジバカマ、クワンジシ、マメガキ、ハッカ、ススキ、カキ、エビスガサ、レモングラス、ワタ	平成27年10月16日(金)	昭和薬質ビル2F直会会場	薬祖神奉賛会 協力事業	2,563	
	新年賀詞交歓会		平成28年 2月24日(水)	神田明神 明神会館			

(表紙) ジャノヒゲの解説● 東京薬科大学 名誉教授 **指田 豊** ●**ジャノヒゲ**

ジャノヒゲ *Ophiopogon japonicus* (L. fil.) Ker-Gaul. (ユリ科) は林下に生える常緑の多年草で葉は線形で長さ10-20cm、巾は2-3mm。縁には微細な鋸歯があります。あまり背が高くならず、日陰にも強いので、芝が育たないような日陰の土地のグランドカバーとして使われます。この目的にはしばしば背があまり高くないチャボリュウとかタマリユウとか呼ばれる園芸品種が使われます。地下には匍枝があって、これで株が増えていきます。

7-8月頃、高さ10cm前後の花茎を伸ばし、上部の小さな苞の脇から1-2個の花を出し、全部で数個から十数個の花を付けます。花は淡紫色または白色で、下を向いて咲きます(写真1)。

花は受粉のあとに果実ができますが、果実はほとんど生長せず、中の種子の方が生長が早いために、種子が子房の壁を破いて露出し、秋には成熟してきれいな青色になります(表紙写真)。ユリ科は被子植物ですので、種子は必ず果実の中にあるはずですが、ジャノヒゲの仲間と近縁のヤブランの仲間はこのように種子がむき出しになりますので、まるで裸子植物です。この種子は皮を剥いて中の白い球(胚乳)を地面におつけるとよく弾むのでハズミダマという別名があります。

ジャノヒゲの名前について

ジャノヒゲは別名をリュウノヒゲと言います。リュウノヒゲは細くて硬い葉を竜の鬚にたとえたことは想像できますが、ヘビには鬚がないのでどうしてジャノヒゲと言うのか理解ができません。なお、学名の *Ophiopogon* もギリシャ語の *ophis* (ヘビ) と *pogon* (ひげ) です。これは日本語のジャノヒゲの直訳だそうです。

生薬としてのジャノヒゲ

ジャノヒゲは株の下から多数のひげ根を出しますが、いくつかのひげ根の所々が紡錘状に膨らみます(写真2)。この膨大部をとり、そのまま、または真ん中の芯(中心柱)を除いて乾燥したものが生薬の麦門冬(ばくもんどう)(写真3)です。中国で生産され、日本では現在、生産がありません。かつて大阪で栽培され、芯抜き作業は芸者のアルバイトだったそうです。

【性状】

紡錘形で、長さ10-25mm、径3-5mm、一端はやや尖り、他端は丸みがあります。やや半透明で外面は淡黄色～淡黄褐色、縦皺があり、柔軟性があります。芯は強靱で折れ難いです。味はわずかに甘く、粘着性があります。

【成分】

ステロイドサポニンの *ophiopogonin* 類、フラボノイドの *ophiopogonone* などを含みます。

【薬理】

動物試験で鎮咳、胃腸運動の抑制、心筋の虚血の改善と心筋の収縮力の増強、マクロファージの呑食能の増強、カラゲニンによる足蹠浮腫の

抑制、黄色ブドウ球菌、枯草菌、大腸菌、赤痢菌、チフス菌などに対する抗菌作用など多彩な薬理作用が認められました。

【適用】

漢方では津液を補う作用があり、口渇を治し、肺を潤して、乾いた咳を治します。滋養強壯の目的でも用います。

ジャノヒゲとヤブラン

ジャノヒゲ属は日本にはジャノヒゲとその変種や別種を合わせて数種が見られます。いずれも花は下向きで青い種子をつけます。ところが日本の山野にはよく似た植物で花が上向き、種子が黒いものがあります(写真4)。ヤブラン属 *Liriope* の植物です。その代表のヤブラン(写真5)は山の日陰に生えるほか、しばしば庭に植えられます。葉の巾が8-12mm、長さが20-30cmほどあり、ジャノヒゲよりかなり大型です。根に紡錘形の膨大部があり、これも生薬の麦門冬(大葉麦門冬)として使いますが、質が落ちるとされており、日本薬局方では麦門冬の基原植物として認めていません。

写真1
ジャノヒゲの花写真2
ジャノヒゲ
3つの株は匍枝でつながり、ひげ根の一部が膨れている写真3
生薬、麦門冬写真4
ヤブラン(左)とジャノヒゲ(右)の種子写真5
ヤブラン

No.460

東京生薬協会会報

発行/公益社団法人 東京生薬協会
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-11-4
東神田藤井ビル7F
TEL・FAX 03-3866-5522
<http://www.tokyo-shoyaku.jp/>
発行/2016年1月15日